

《令和3年度阿南市在宅医療・介護連携支援センター事業》
養護老人ホーム・軽費老人ホーム事業所サービス連絡会

開催日：令和3年11月29日（月）

時間：13:30～15:00

場所：阿南市役所 307 会議室

目的：同業種間での共通認識・資質向上に繋ぐ顔と顔の見える関係づくりの構築。
在宅医療・介護に関わる業種ごとに開催し、同業種間の意見交換を通じた資源の把握、課題の抽出等を行う。

参加者：10名

ケアハウス タラサ双葉	：施設長	高崎 泰規
ケアハウス 健祥会アンダルシア	：介護職員	岡本 理香
	：介護職員	伊丹 美枝子
養護老人ホーム福寿荘	：調理主任	檜原 美穂
養護(盲人)老人ホーム 羽ノ浦荘	：生活相談員	佐々木 宏典
地域共生推進課	：課長	日下 浩之
地域共生推進課	：主査	松崎 由美
地域共生推進課	：事務主任	織原 裕希
介護保険課	：主事	福島 康人
在宅医療・介護連携支援センター	：センター長	湯浅 祐司

(1)挨拶

阿南市地域共生推進課 日下浩之課長

(2)本会について事務局からの説明

同業種間での共通認識・資質向上に繋ぐ顔と顔の見える関係づくりの構築。
また、在宅医療・介護に関わる業種ごとに開催し、同業種間の意見交換を通じた資源の把握、課題の抽出等を行うことが目的。

(3)自己紹介

(4)意見交換

◆外出への取り組みについて

- ・新型コロナウイルス感染症があって外出については、11月より開始している施設もある。施設によっては、病院受診やどうしても外出しなければならない理由は可能として、その都度、施設長の判断としている。

- ・外出について、個別対応もしているが入居者等は元気であるので、統一した見解を示さなければ不平不満が出るので、難しい判断をしているのが現状である。
- ・コスモス畑へのドライブや近所を散歩するなどの外出行事を行い、入居者のストレス解消に繋げている。

⇒各施設の対象者が比較的元気な入居者であるので、コロナ過での外出自粛の緩和を各事業所の取り組みを参考にして実施に繋げていく。
全ては入居者の為に、外出の判断基準などを情報交換して元気で過ごせるサービス提供に繋げていく。

◆お風呂介助について

- ・入居者の重度化及び新型コロナウイルス感染症対策として個浴を検討している。
- ・感染症対策はいつまで続けての入浴介助をしなければならないかと職員は慣れてきた一方、疲労感もある。
- ・密にならないように、時間配分をしながら入浴をしているので入浴時間が短くなっている。

⇒入浴に対しては、これからの季節はゆず風呂をして楽しんでいただき、お風呂で疲れもストレスも癒されるように工夫をしていく。

⇒職員の感染症対策はしっかりと国や県より発出されているチェックシートに伴い、実施を徹底していく。

⇒個浴については、導入している施設もあるので情報交換を行って、導入を図る。

◆セコム等の見守りカメラ導入について

- ・各施設、監視カメラは無いが防犯カメラ等は設置している。外出自粛で知らない間に施設へ出たこともあり、大きな事故に繋がらないか冷や冷やしている。
- ・色々な対応をしても外に出たいという思いで、次から次と外へ出る策を考えられ、対応に追われて業務にも支障が出ている。

⇒新型コロナウイルス感染症で自粛がありストレスを感じている入居者の気持ちに寄り添い、なぜ外に出たいのかを把握して個別対応できるのであれば対応していく。しかし、個別対応が困難なことは施設全体での取り組みとして考えて対応していく。

身体拘束に当たらぬようにしっかりと、法を理解して対応を行っていく。対応に追われる事項については一人に任せず、チームとして複数で対応策を考えていく。

◆宿直体制について

- ・種別により宿直に対する人数や雇用形態が異なるが、人材確保に困難をしている。
 - ・宿直業務は労働基準法により緊急時対応等で、日中業務との切り分けが必要だが、職員が宿直を行うのが重度化での不安もあり精神的負担が多くなっている。
- ⇒施設によっては宿直専門員を雇用して対応して負担軽減に繋げているなど、働き方改革に取り組んでいる。
- ⇒本当に、入居者にとって適正な施設であるのか等を本人・家族等と相談して、介護保険認定者は介護支援専門員にも相談をして、本人にとって最適な生活提供に繋げる。

(5)組織運営について

阿南市内の居宅介護支援事業所部会の立ち上げに賛同して頂き、令和3年度の部会長としてケアハウス タラサ双葉の高崎施設長に決定。

今後は、部会を積極的に活用してより良い関係の構築をして運営に反映させていく。

医療との連携に対しての相談等は、当センターへお問い合わせいただくことで連携を図っていく。

【総評】

同じ種別で悩みや不安があった職員が直接会ってコミュニケーションを図ることで対応方法等の共通認識ができた。また、この連絡会で今後も連絡を取り合っていこうと前向きな連携への一歩となった。

医療と介護の連携で、情報収集が困難であるという意見があったので、当センターや阿南市より研修案内や情報提供をし、活用して頂く。

連絡や情報交換はメール等を活用してスムーズな連携に繋げる体制で部会運営を行っていく提案し、参加者よりの賛同を得られることができた。

今後も感染症対策等を徹底し、顔の見える関係づくりで、強固たる連携構築を目指す。

【連絡会風景】

